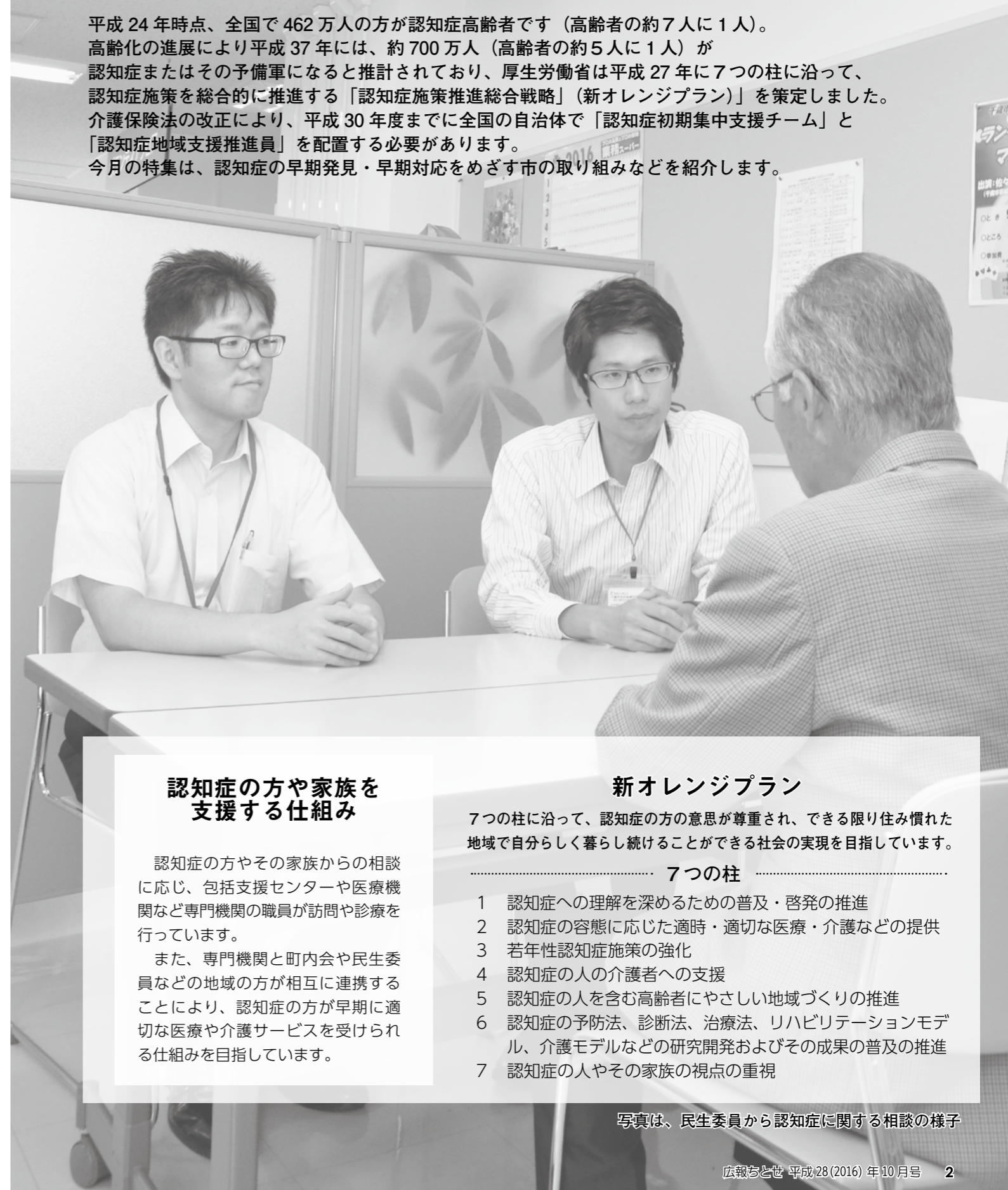


# 認知症の早期発見・早期対応をめざして

平成 24 年時点、全国で 462 万人の方が認知症高齢者です（高齢者の約 7 人に 1 人）。高齢化の進展により平成 37 年には、約 700 万人（高齢者の約 5 人に 1 人）が認知症またはその予備軍になると推計されており、厚生労働省は平成 27 年に 7 つの柱に沿って、認知症施策を総合的に推進する「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」を策定しました。介護保険法の改正により、平成 30 年度までに全国の自治体で「認知症初期集中支援チーム」と「認知症地域支援推進員」を配置する必要があります。今月の特集は、認知症の早期発見・早期対応をめざす市の取り組みなどを紹介します。



はじめまして！  
認知症初期集中支援チームです

市は、10 月から千歳病院内に、医師・看護師・精神保健福祉士の 3 人をチームとする「認知症初期集中支援チーム」を設置しました。このチームは、地域包括支援センターからの情報提供や認知症の方の家族からの相談により自宅を訪問し、認知症の正しい知識を提供します。また、介護サービスを利用する効果について説明するほか、必要に応じて医療機関の受診につながるなど、認知症の方や介護をしている方のサポートをします。

## 私たちが「集中支援チームです」



看護師 田村 敦子 さん  
医師 佐藤 正俊 さん  
精神保健福祉士 作田 直人 さん



本人や家族にとってより良い支援につなげていきたい

精神保健福祉士 作田 直人 さん

私たちは、40 歳以上の方で認知症の疑いがあるときなどに、自宅訪問を通じて、経済状況や他の病気の有無などを確認しながら、医療や介護サービスにつなげる提案をしています。

認知症は、薬物療法やリハビリにより進行を遅らせることが期待できる病気です。症状が軽いうちに医療や介護サービスにつなげることが理想ですが、これまで支援を受けられず症状が進んでしまった方も少なくありません。

医師や看護師、精神保健福祉士の専門家が連携して、一人ひとりに深く関わりながら、本人や家族にとってより良い支援につなげていきたいです。

## 地域支援推進員の役割

必要な医療や介護サービスを受けられるよう関係機関との連携体制の構築

認知症の方や家族への専門的な相談会の企画調整など

認知症の方や家族の相談支援、認知症初期集中支援チームとの連携による介護サービスの調整など

市は、認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう、4 月から、北区地域包括支援センターと千歳病院内「認知症地域支援推進員」を 1 人ずつ配置しています。推進員は、認知症の早期発見・早期対応のため、地域包括支援センターや医療機関、介護サービス事業所、町内会などと連携し、さまざまな方向から認知症の方の支援体制づくりに努めています。また、認知症の方や家族からの相談に応じ、認知症初期集中支援チームと連携して、本人や介護をする方にとって適切なサービスにつながるようサポートしています。

認知症地域支援推進員に相談してください

## 支援の輪をつくっています！

認知症の方が住み慣れた場所で安心して暮らすためには、隣近所など地域の方からサポートが受けられる環境が必要です。

認知症地域支援推進員は、認知症の方やその家族をさまざまな方向から支援できるよう「病院」、ケアマネジャーや介護施設などの「サービス」、民生委員や町内会などの「地域」を一つの輪につなぐ役割を持っています。

民生委員の会合や介護予防教室などの機会に「認知症になったらどのような支援があると良いか」などのアンケート調査を行い、認知症への関心を深めてもらいながら、市民の皆さんと一緒に支援体制をつくる取り組みを進めています。また、「家族が認知症かもしれないがどうしたら良いか」、「認知症の人との関わり方が分からない」など、認知症に関する相談も受け付けていますので、お困りのときは相談してください。



認知症地域支援推進員 吉田 肇 さん  
北区地域包括支援センター 社会福祉士

## 認知症の方や家族を支援する仕組み

認知症の方やその家族からの相談に応じ、包括支援センターや医療機関など専門機関の職員が訪問や診療を行っています。

また、専門機関と町内会や民生委員などの地域の方が相互に連携することにより、認知症の方が早期に適切な医療や介護サービスを受けられる仕組みを目指しています。

## 新オレンジプラン

7 つの柱に沿って、認知症の方の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指しています。

### 7 つの柱

- 1 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- 2 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護などの提供
- 3 若年性認知症施策の強化
- 4 認知症の人の介護者への支援
- 5 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- 6 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデルなどの研究開発およびその成果の普及の推進
- 7 認知症の人やその家族の視点の重視

写真は、民生委員から認知症に関する相談の様子

**【認知症の相談窓口】**

◆**認知症地域支援推進員**


- ・認知症疾患医療センター（担当：作田）  
桂木1丁目5番6号（千歳病院内）  
☎(40)7111
- ・北区地域包括支援センター（担当：吉田）  
北光2丁目1番1号（市立千歳市民病院内）  
☎(25)8180

◆**地域包括支援センター**

- ・西区地域包括支援センター  
新富1丁目3番5号（新富ほっとす内）  
☎(42)3131
- ・東区地域包括支援センター  
流通3丁目3番地の16（祝梅ほっとす内）  
☎(40)6516
- ・南区地域包括支援センター  
大和4丁目2番1号  
（特別養護老人ホームやまとの里内）  
☎(22)5188
- ・向陽台区地域包括支援センター  
若草4丁目13番地の1（向陽台支所内）  
☎(48)2848

認知症への理解を深めていきませんか  
「誰もがなりえる」と  
言われている認知症。  
もし、自分の身に起き  
ても、地域の支えがある  
と分かれば安心し  
て暮らしていけるのでは  
ないでしょうか。  
住み慣れた千歳で安心  
して暮らせるように「認  
知症とはどのようなもの  
か」、「どのような支援が  
必要か」ということを皆  
さんが理解していくこと  
が大切です。

千歳市地域包括支援センター  
マスコットキャラクター もーるくん



みーまちゃん

特集記事のお問い合わせ  
高齢者支援課地域包括係  
☎ (24) 0896

**認知症の進行チェック表**

**気づき**

- 人や物の名前が思い出せないことが見られる
- 会話の中で「あれ」、「それ」などがよく出てくる
- 日常生活は自立して過ごせている

**軽度**

- 買い物で必要なものだけを買うことができない
- 夕食の段取り、家計管理などに支障を来す
- 大事なもののしまい場所を忘れて探し回る
- 同じことを何度も話す・聞く

**中等度**

- 季節にあった服を選ぶことができなくなる
- 服を着る順番が分からなくなる
- 外出して一人で戻れなくなる事がある
- 時間や場所が分からなくなることが増えてくる

**重度**

- 歩行が不安定になり、転倒などが増えてくる
- トイレの場所が分からず失敗することが増えてくる
- 食事や入浴などが一人でできず、介助が必要になる
- 時間や場所が分からなくなることが増えてくる

**終末期**

- 言葉によるコミュニケーションが難しくなる
- 表情が乏しくなり、刺激に対する反応が鈍くなる
- 歩くことが困難となり、ほぼ寝たきりの状態となる

.....「認知症サポーター」を養成しています.....

「認知症サポーター」は認知症を正しく理解し、地域や職場で認知症の方やその家族を見守り支援します。

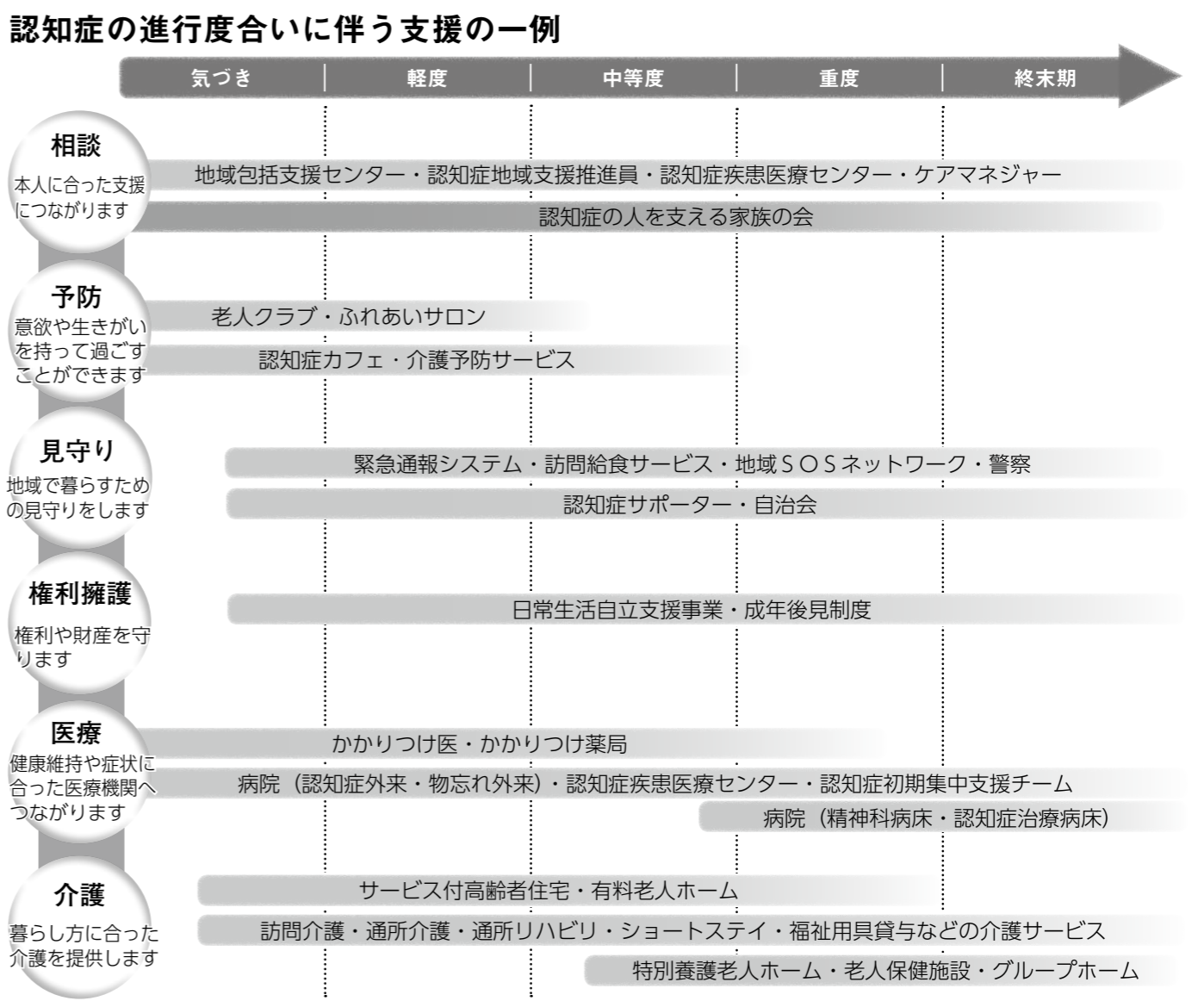
市は、認知症に関する正しい知識や対応などを学ぶ「認知症サポーター養成講座」を開催しています。皆さんの受講をお待ちしています。

**【お問合せ先】**  
千歳市介護予防センター  
☎ (23) 0012

※受講者には、認知症サポーターの証としてオレンジリングをお渡しします。

# ひとりで悩まずに相談してください

下の図は、認知症の進行度合いによってどのような支援が受けられるかの目安です。認知症に関する相談は、地域包括支援センターや認知症疾患医療センターなどで受け付けています。また、「千歳認知症の人を支える家族の会（はまなすの会）」では、介護をする家族を支えるため、介護の悩みなどを共有する活動を行っています。




**介護の辛さや大変さを分かち合っていきたい**

はまなすの会では、認知症の方の家族が抱えている心配事を共有するため、毎月第3木曜日に「つどい」という例会を行っているほか、介護の現場から離れて少しでも元気を回復してもらうため支笏湖温泉などへ行くリフレッシュ旅行を実施しています。また、皆さんに認知症への理解を深めてもらうため、市内の小中学生に「認知症とはどのような病気か」などを紙芝居やクイズ形式でお伝えする「福祉の授業」を行っています。

「認知症は誰もがなりえるもの」と最近ではよく聴きますが、自分に関係ないと思っている方は少なくないと感じています。「認知症とはどんな病気か、介護をする家族はどのようなところが辛いのか」などを地域の方に理解してもらうことで、認知症の方やその家族が千歳で安心して暮らせることにつながると信じています。

介護の大変さや辛さを少しでも共有できるように、他の市民団体などと協力しながら、介護をしている方とその近所に住む方が交流できる場所をつくっていききたいですね。



**はまなすの会**  
おいかわ たえみ  
会長 及川 妙美さん